



1

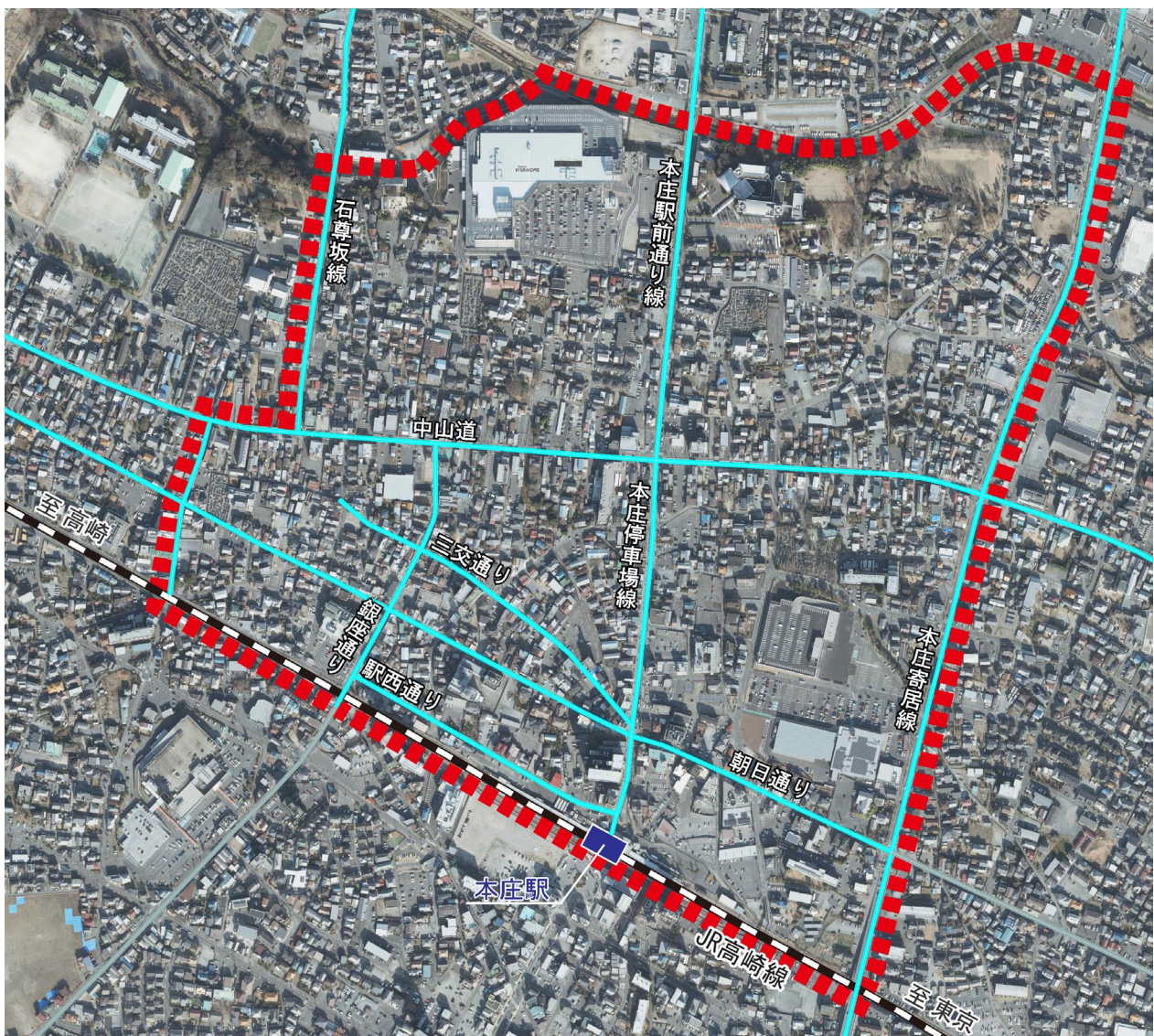
計画対象地区

本庄駅北口周辺とは



本計画において「本庄駅北口周辺」（以下「本地区」という。）とは、北は元小山川、西は石尊坂線から旧本庄商業銀行煉瓦倉庫西側の道路、南は JR 高崎線、東は本庄寄居線に囲まれた約 82ha の範囲を指し、「本庄市立地適正化計画※」において「都市機能誘導区域※」と位置づけられた区域の一部です。

本庄駅北口周辺の範囲



(撮影年月：令和 2 年 12 月)

右肩に「※」のついた用語は資料編に用語解説があります。

2

歴史的背景

中山道最大の宿場町として栄えた歴史の面影を残すまちなみ



本地区は、江戸と京を結ぶ中山道沿いの「本庄宿」としてまちが形成され、その後、沿道最大の宿場町となるまで発展しました。また、古くから周辺で盛んであった養蚕業の中心地でもあり、江戸時代末期には、周辺の村から繭や生糸が集まる市場としてもにぎわいを見せました。明治に入り近代化が進む中で、現在の群馬県富岡市に官営富岡製糸場が設置されたことに始まり、高崎線の開通、本庄駅の開業などにより、宿場町「本庄宿」は養蚕と絹のまち「本庄町」と姿を変えました。大正となってもその勢いは変わることなく、本庄繭市場の開設、大規模な製糸工場の進出などにより、さらなる繁栄を遂げました。昭和 29 年、隣接する 4 村との合併により「本庄市」となりました。中山道を東京オリンピック聖火リレーが通過したり、銀座通りでは歩行者天国が開催されたりと、本地区は「人とものが集まるにぎわいの中心地」でした。また、昭和 62 年に橋上化された新しい本庄駅の駅舎が完成すると、新たな「まちの玄関口」としての役割を担うこととなりました。

平成 18 年に旧見玉町との合併により新「本庄市」が誕生、そして令和となった現在においても、本地区には昔ながらのまちなみが色濃く残っています。養蚕のまちとしての繁栄を今に伝える旧本庄商業銀行煉瓦倉庫をはじめとする、歴史を感じさせる雰囲気本地区の特徴とする声が多くあります。



繭の出荷でにぎわう本庄町



昭和 54 年ごろの銀座通り



旧本庄商業銀行煉瓦倉庫



旧本庄警察署

3

政策的課題

「まちなか再生」を重点施策とした政策展開

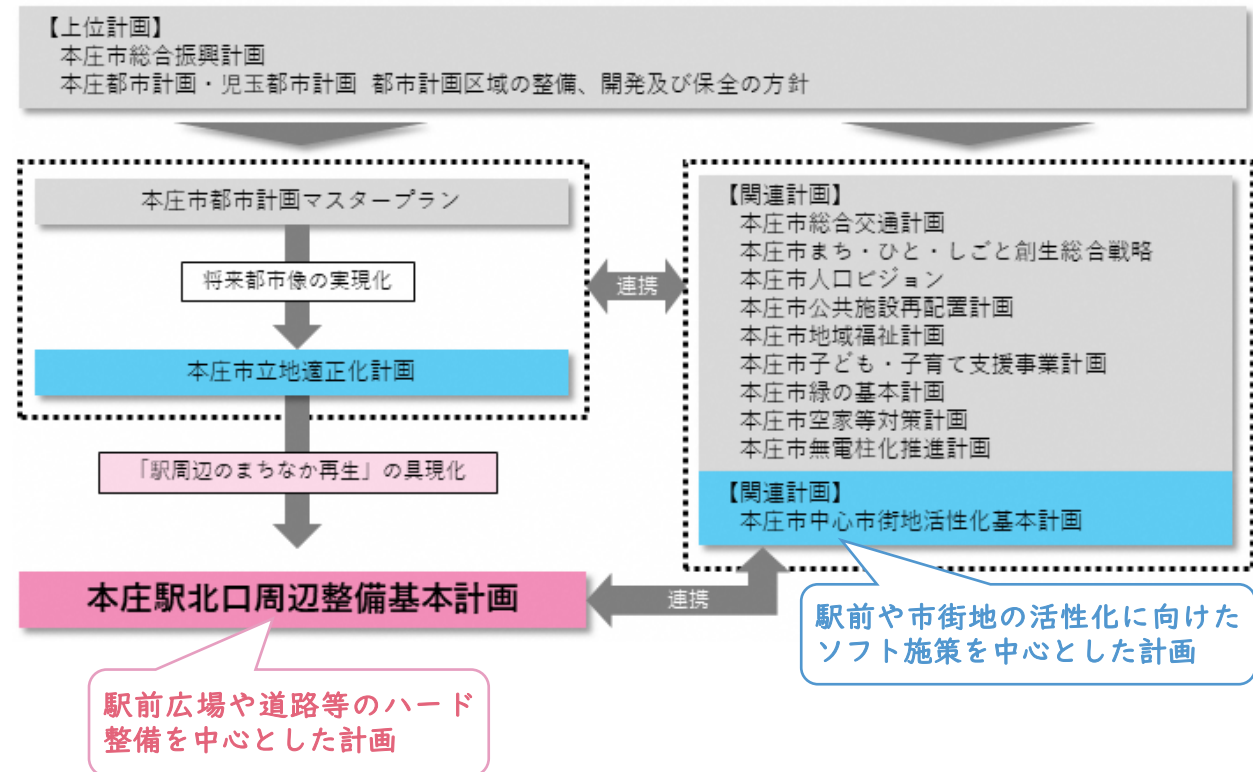


本市では、平成30年3月に「本庄市立地適正化計画」を策定し、本地区を含む本庄駅周辺を「都市機能誘導区域」及び「居住誘導区域^{*}」と定め、日常生活に必要な機能の集積や居住の促進による「まちなか再生」を重点施策として位置づけています。

本計画は、「本庄市立地適正化計画」のアクションプラン(行動計画)として、本地区のまちづくりについて、具体的な方針や取組みを定めるものです。都市の空洞化^{*}が進む今、まちなかに再び目を向け、インフラ^{*}整備等に取り組むことでまちなかに人を呼び戻し、子どもから高齢者まで幅広い世代が安全・快適に暮らせ、回遊・滞在の楽しさを感じることができ環境づくりが必要です。



計画の位置づけ



4

ポテンシャル

交通・生活利便性が高く、多くの人が行き交う環境



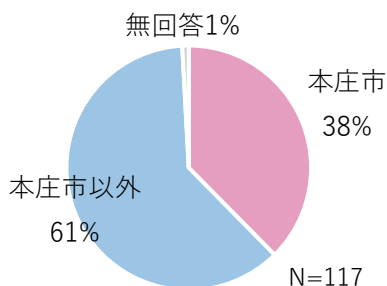
本地区は、JR 高崎線や群馬県南部方面へ接続する幹線道路などにより交通利便性が高く、大型商業施設や金融・公共機関、はにぼんプラザ等、人々の生活を支える多様な機能が集まるポテンシャル（可能性、潜在力）の高い地域です。

また、本庄駅利用者の約6割が市外在住、さらにその多くが通勤や通学等で日常的に利用しており、日々、様々な方面から人が集まり、行き交う環境にあります。

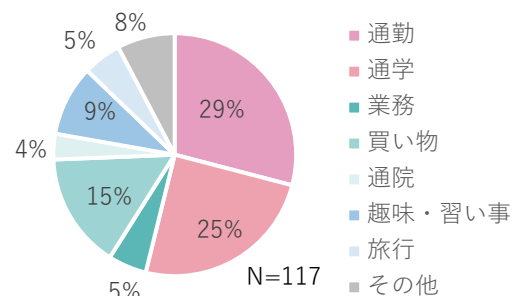


利用者で混雑する本庄駅

本庄駅利用者の居住地



本庄駅の利用目的



出典：H30 本庄駅鉄道利用者ヒアリング調査



市民ワークショップにて挙げられた本地区の良いところ！

本計画策定にあたり、様々な方の声を計画に反映するために市民ワークショップを開催しました。（開催概要等の詳細は資料編に示します。）

その中で、本地区の良いところ・ポテンシャルとして様々な意見が挙げられました。

- 買い物に便利で、歩いてでも生活できるほど暮らしやすい
- 東京方面へ向かう電車の利便性が高い
- はにぼんプラザや旧本庄商業銀行煉瓦倉庫等、市民がイベントや講座、学習の場として共有できる場所が駅から近い場所にあり便利
- 三交通りや路地等に古いまちの雰囲気が残っており魅力的だと思う
- 学校が近く、学生や家族で住む環境としても良い
- 桜が綺麗な場所や歴史のあるお祭り、寺社仏閣等も多く、住んでいて楽しい

5

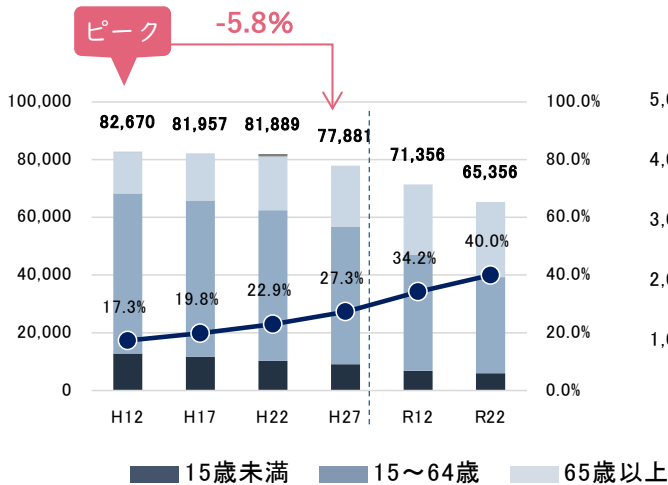
社会的課題

進む人口減少・少子高齢化への対応とにぎわいの創出

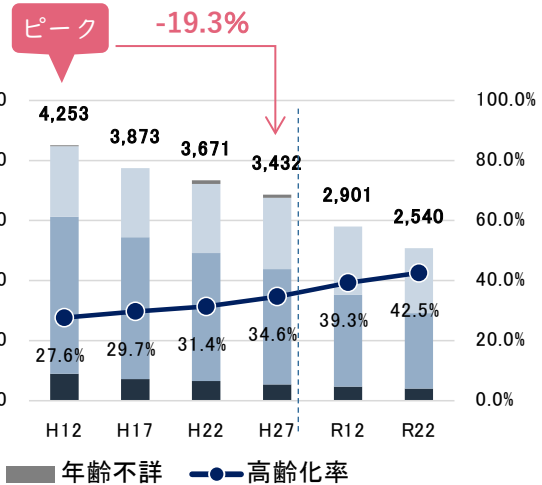


本市の人口は平成12年の82,670人をピークに減少傾向に転じ、平成27年では77,881人とピーク時から5.8%減少しています。また、高齢化率も年々高くなっており、人口減少、少子高齢化の進行が市全体の課題と言えます。同様に、本地区の状況を見てみると、平成12年から平成27年にかけて人口は19.3%減少し、高齢化率も34.6%へ上昇し、全市を上回るペースで人口減少、少子高齢化が進んでいます。

本庄市の人口推移



本庄駅北口周辺の人口推移



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）
 ※本庄駅北口周辺の人口推移は、国勢調査の小地域別人口を基に、社人研の推計値に準じて算出

本地区は、戦災の影響が少なかったこと等もあり、古くからのまちの区画や、昔ながらの路地が残っており、本地区の特徴となっています。その一方で、不整形な区画は建物の建て替えや土地の有効活用の支障となり、空き家等の増加を招いたり、緊急車両が進入できずに沿道の住民の安全・安心な暮らしを脅かすなど、本地区の課題となっています。

にぎわいの中心であった頃の面影や思い出を大切にしながら、今を生きる人や歴史的価値のある資産等を活かし、どのようににぎわいを創出し、持続可能なまちへ結び付けていくかが課題となっています。



道幅の狭い道路・路地

6

事業の必要性

本庄駅北口周辺整備事業の必要性



本地区は、人やものが集まる地区であった歴史を持つ一方、近年では中心市街地の空洞化が進行しています。これは、計画的に市街地整備を実施した市街地外縁部と比べ、本地区の道路基盤整備が立ち遅れていること、基盤の整った外縁部での宅地開発や新規出店が進んだことなどが要因と考えられます。

このため、歴史的背景やポテンシャルを活かしながら、地区の魅力を向上させるため、公共インフラの再整備・機能改善を通じて、暮らしの場としての質の向上が必要です。

そこで、本計画では本庄駅北口駅前広場の再整備や地区内道路の改修等に関する方針を定め、インフラの整備による交通の円滑化や安全性の向上のみならず、地区全体の活性化を図っていくことを目指していきます。

本計画の推進にあたっては、整備されたインフラが地域に根差したのものとして持続的に活用されていくことが重要です。今後、本地区のまちづくりに向けた具体的な整備プランを検討するにあたっては、市民の皆さま、地域で活動されている団体や事業者の皆さまと共に進めていきます。



公共インフラ整備とは？

インフラとは、インフラストラクチャー (infrastructure) の略で、もともとは「下部構造」という意味ですが、これが転じて道路・通信・公共施設など「産業や生活の基盤となる施設」として使われています。

本計画では、駅前広場や道路といった生活の土台となるインフラを整備・改善することで、建物の更新や民間開発の促進を図ります。

また、利用しやすく、安全・安心な空間を作ることで、多くの人々が住み、訪れることにより、地域の活力が生まれ、にぎわいが創り出されるような取組みへと展開していきます。

